



東京証券取引所 市場第一部  
証券コード 6926

# 2013年3月期 (2012年度) 中間決算説明会

2012年11月30日(金)

岡谷電機産業株式会社

[ I ]

**2013年3月期(2012年度)  
中間決算説明**

## 連結経営業績の概要(1)

### 2012年度上期業績

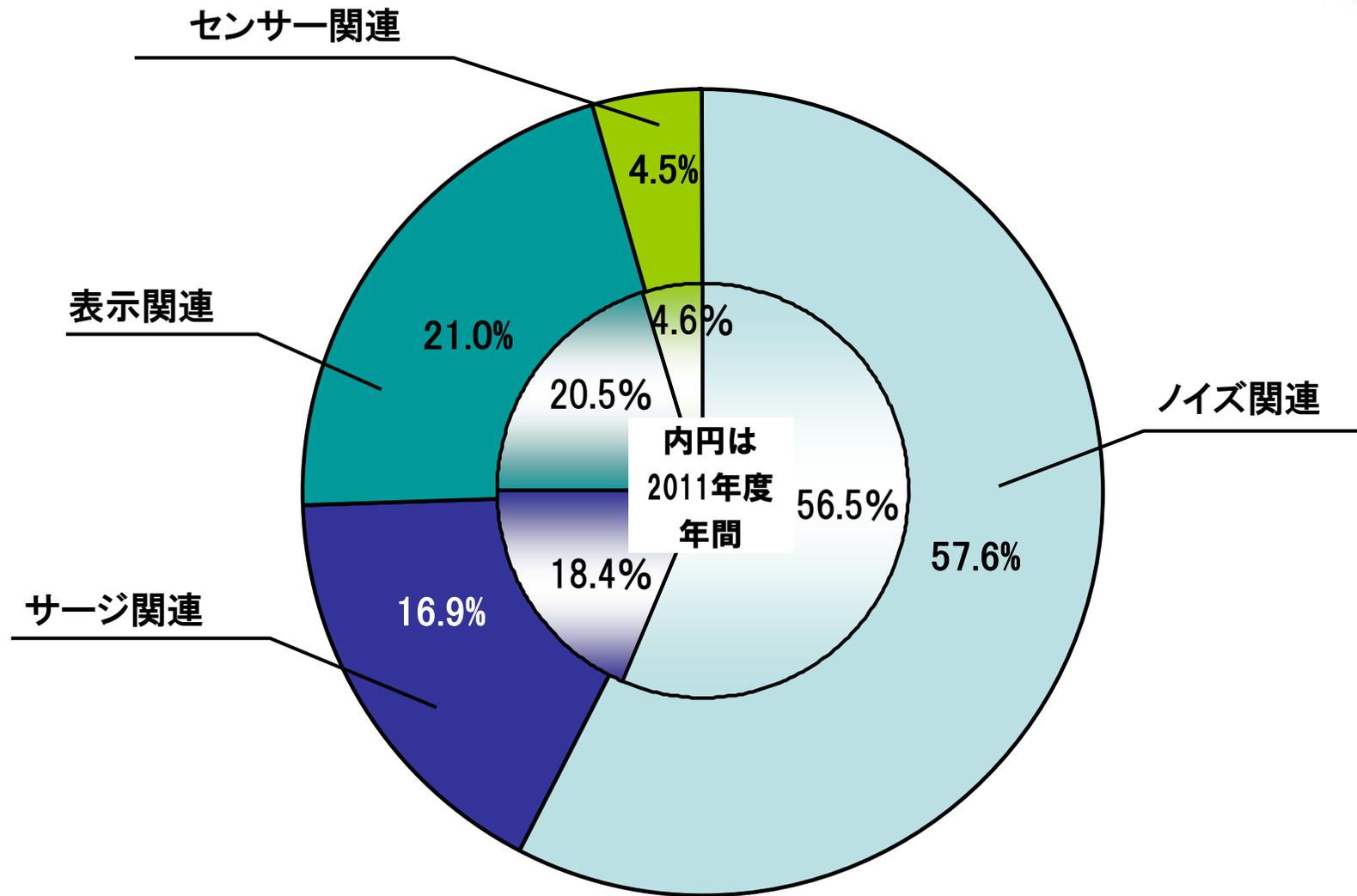
	業績 (百万円)	計画比 (%)	前年上期比 (%)	前年下期比 (%)
売上高	5,694	94.9	80.1	106.9
営業利益 (利益率)	147 (2.6%)	98.0	21.1	(+242)
経常利益	132	88.0	21.3	(+130)
純利益	99	123.8	20.7	(+181)

## 連結経営業績の概要(2)

### 事業別売上高 (連結)

事業別	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前年 上期比(%)	前年 下期比(%)	内容
ノイズ	3,277	57.6	79.8	112.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー分野微増 (全体)</li> <li>・工作機業界2Qより生産調整 (全体)</li> <li>・TVの影響続く (ノイズ)</li> <li>・LED照明へ集中(PDP、LCD終息へ) (表示)</li> <li>・中国ローカルインバータエアコン進まず (サージ)</li> </ul>
表示	1,197	21.0	87.6	100.8	
サージ	964	16.9	73.3	99.2	
センサー	256	4.5	80.8	101.6	

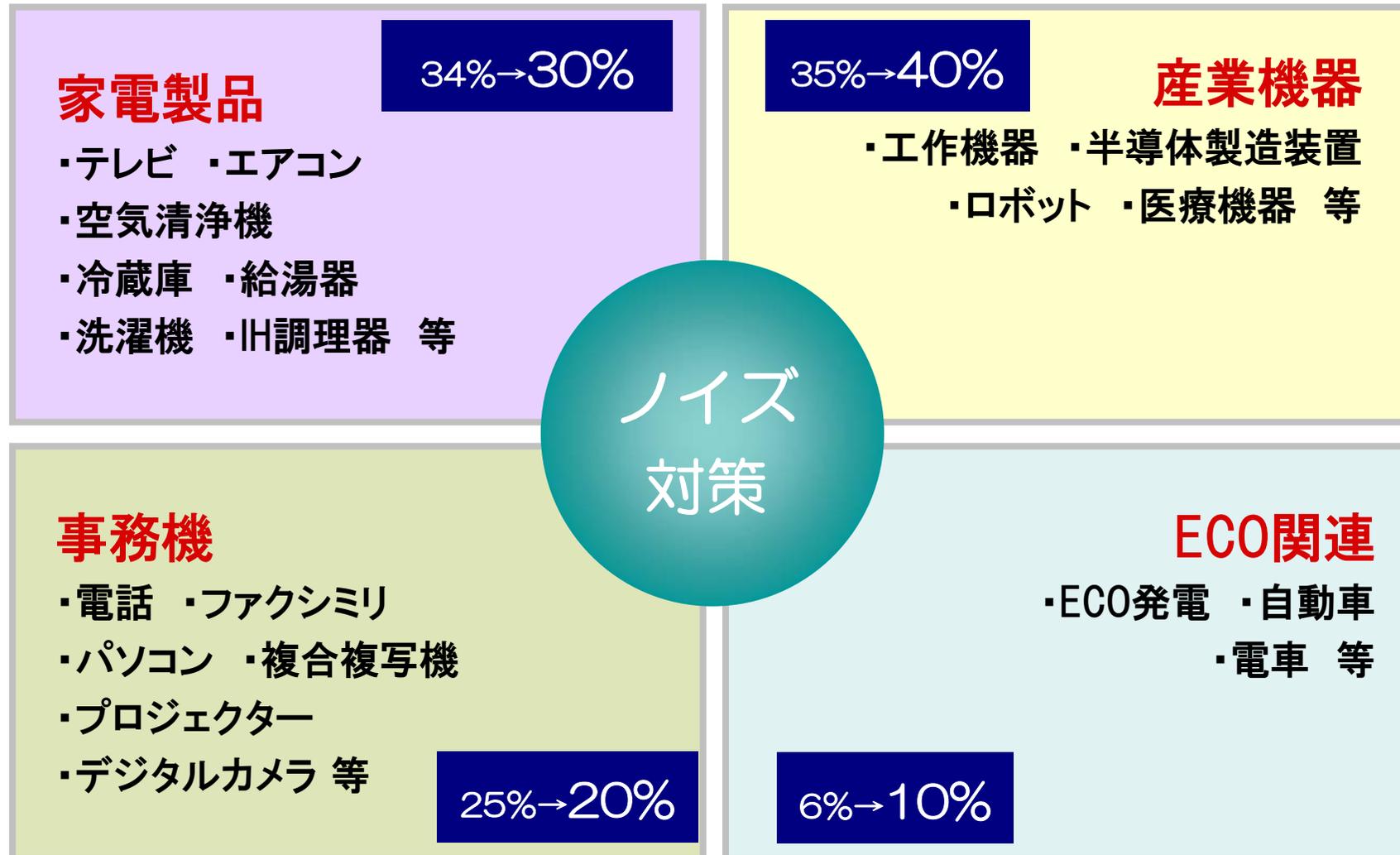
# 事業別売上高



(売上高構成比 12年上期)

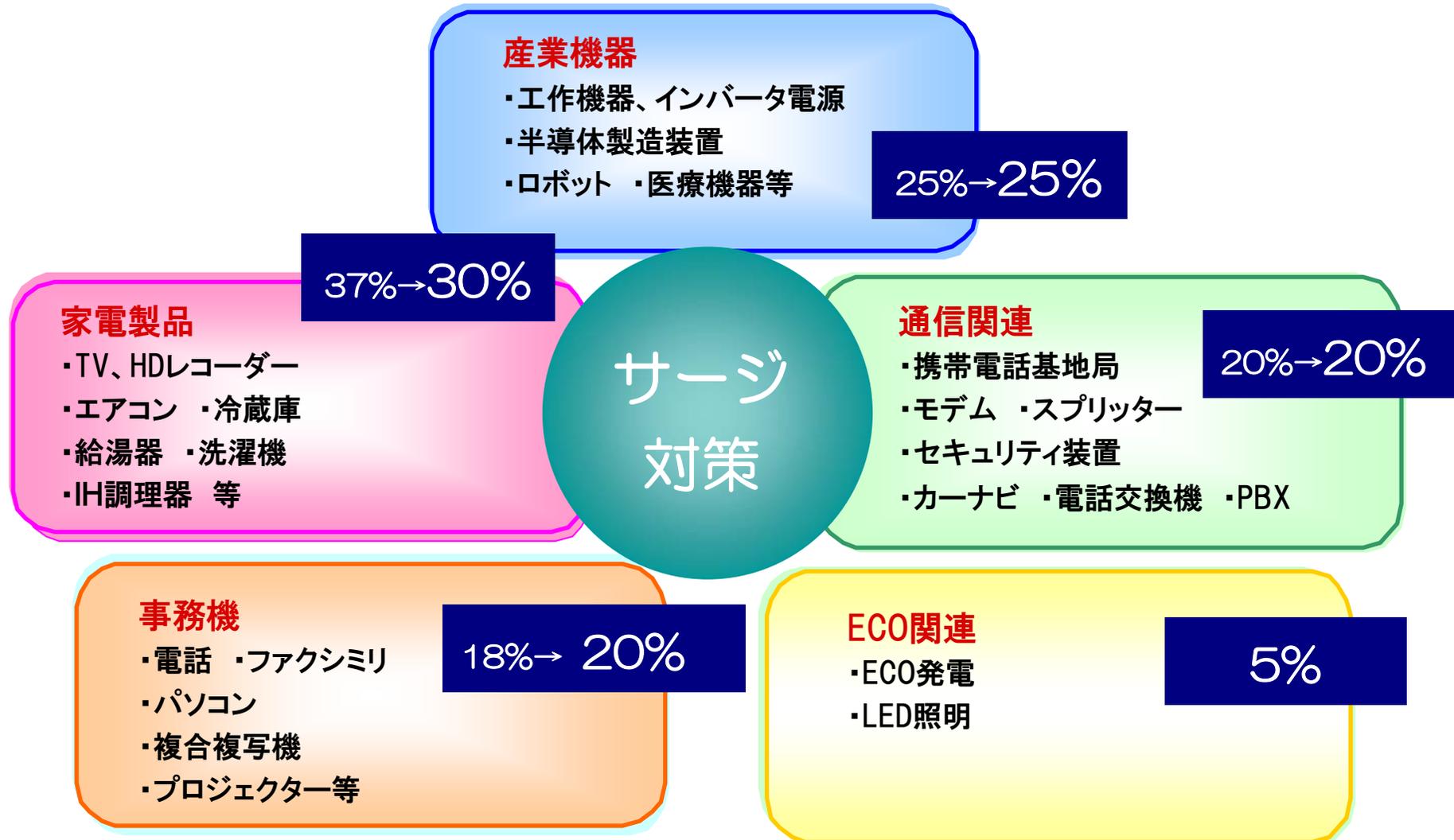
# ノイズ対策部品の用途別売上構成比推移

構成率変化 11年度年間→12年上期



# サージ対策部品の用途別売上構成比推移

構成率変化 11年度年間→12年上期

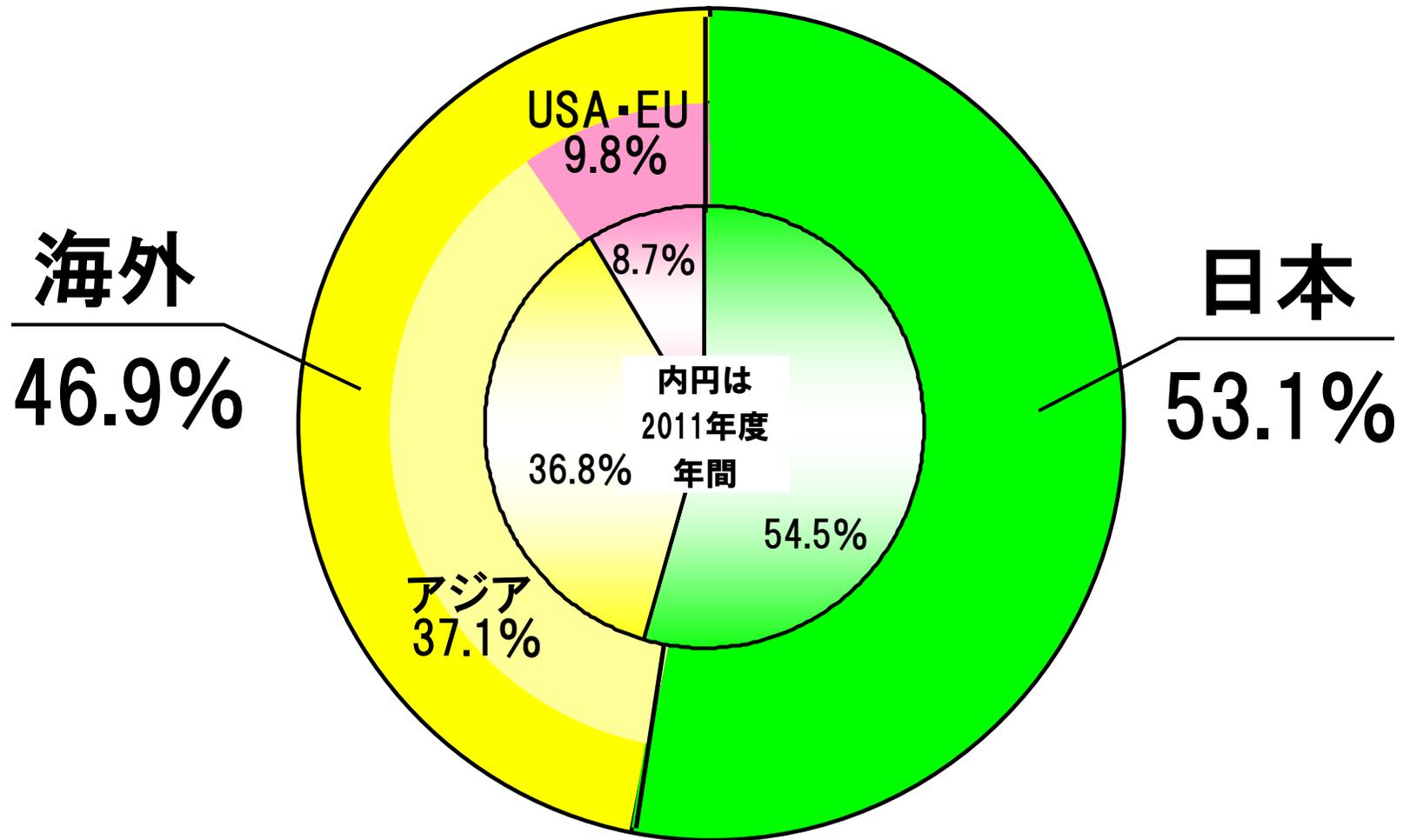


## 連結経営業績の概要(3)

### 地域別売上高

地域別	売上高 (百万円)	構成比(%)	前年 上期比(%)	前年 下期比(%)	内容
日本	3,022	53.1	80.9	99.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作機業界2Qより生産調整</li> <li>・LED照明業界は活発になってきた</li> </ul>
アジア	2,115	37.1	76.5	116.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国伸び悩み(EU輸出・内需)</li> <li>・TVの影響続く</li> </ul>
USA、 EU他	557	9.8	91.9	116.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・USA(家庭医療器向)安定</li> <li>・EUは低迷中</li> </ul>

# 地域別売上高



(売上高構成比 12年上期)

## 連結経営業績の概要(1)

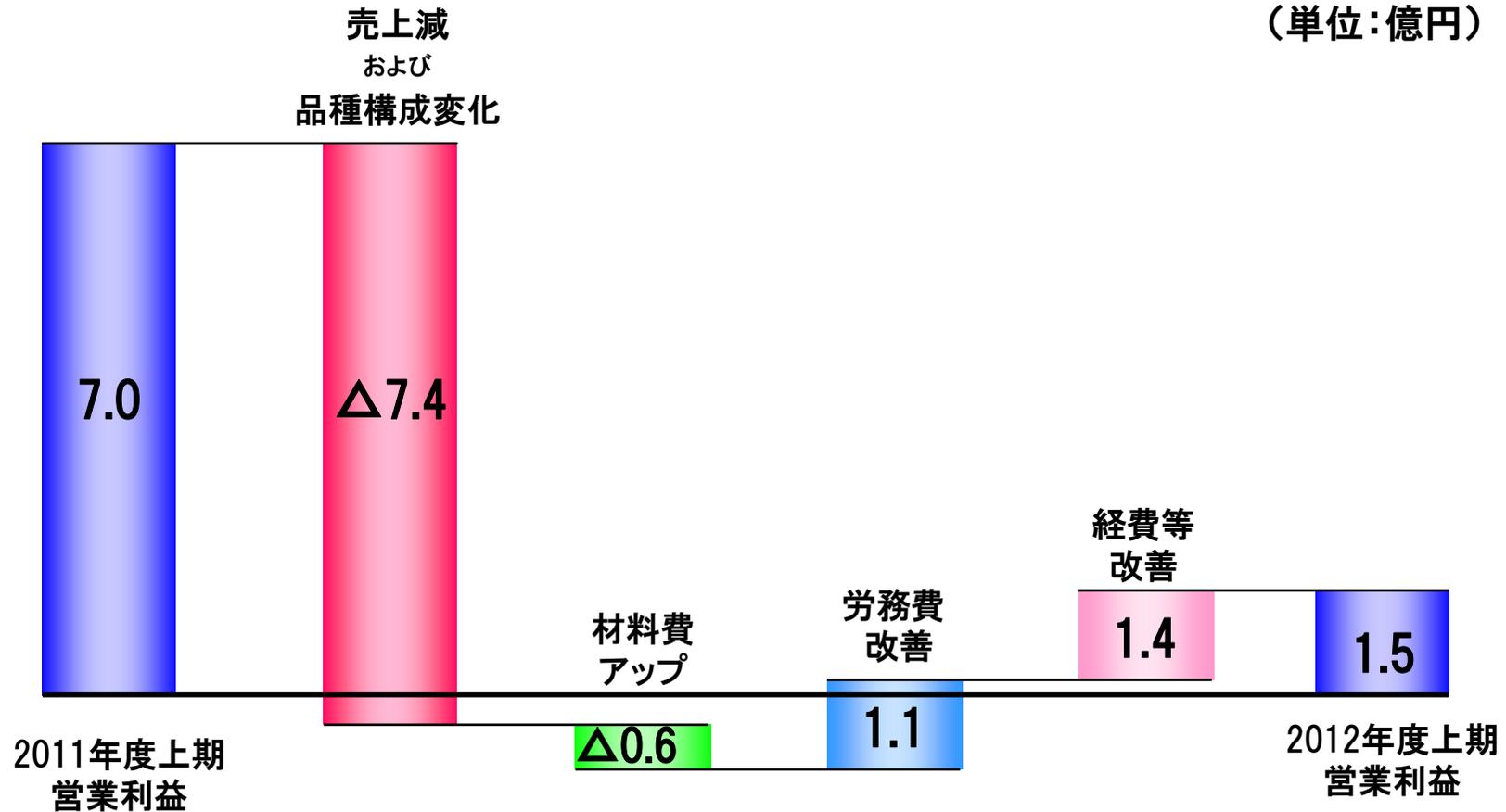
### 2012年度上期業績

	業績 (百万円)	計画比 (%)	前年上期比 (%)	前年下期比 (%)
売上高	5,694	94.9	80.1	106.9
営業利益 (利益率)	147 (2.6%)	98.0	21.1	(+242)
経常利益	132	88.0	21.3	(+130)
純利益	99	123.8	20.7	(+181)

# 営業利益の増減分析グラフ

(為替変動影響除く)

(単位:億円)



## 連結経営業績の概要(1)

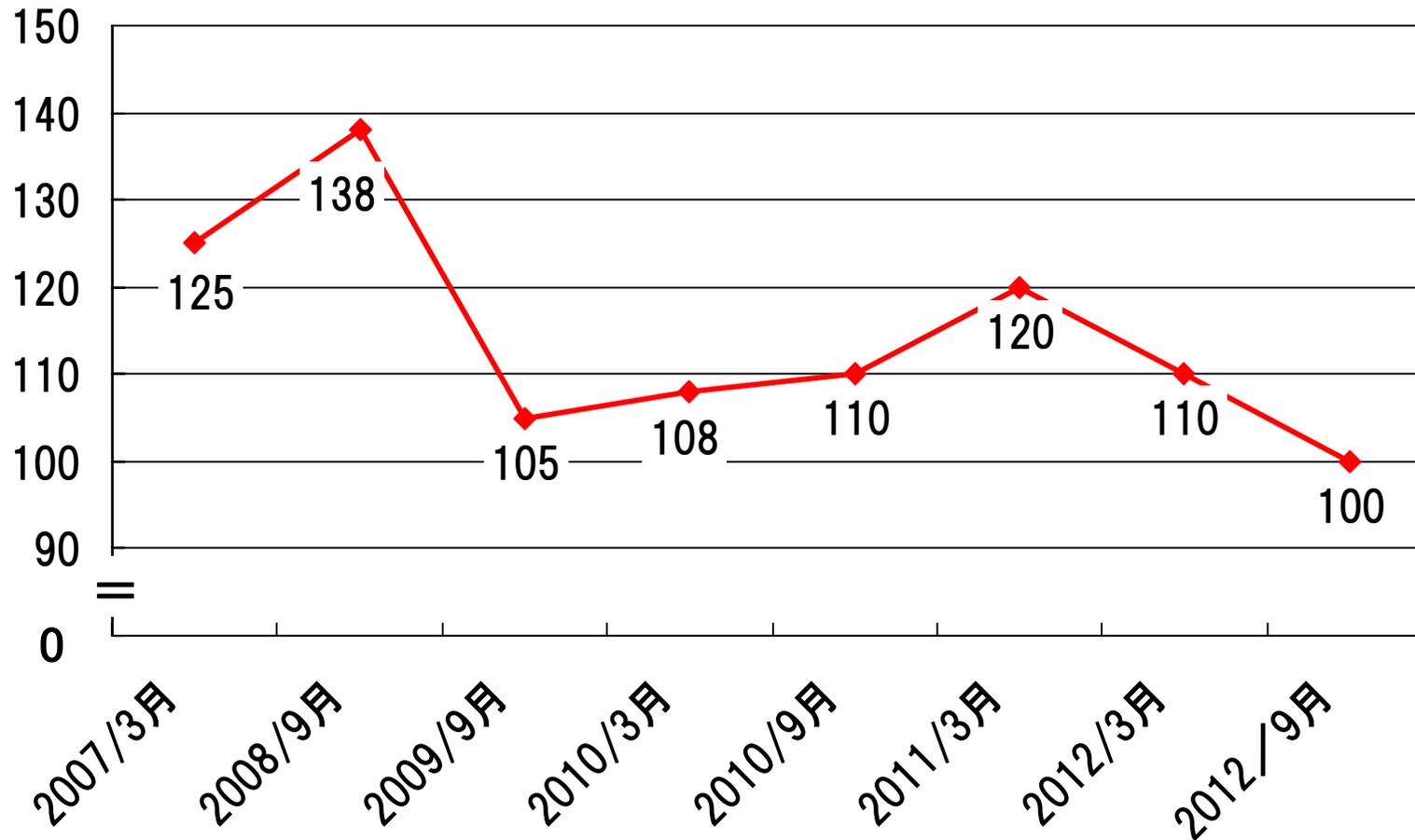
### 2012年度上期業績

	業績 (百万円)	計画比 (%)	前年上期比 (%)	前年下期比 (%)
売上高	5,694	94.9	80.1	106.9
営業利益 (利益率)	147 (2.6%)	98.0	21.1	(+242)
経常利益	132	88.0	21.3	(+130)
純利益	99	123.8	20.7	(+181)

税率の低い海外利益比率が高くなったことによる

## 損益分岐点の推移（売上高／営業利益）

（億円）

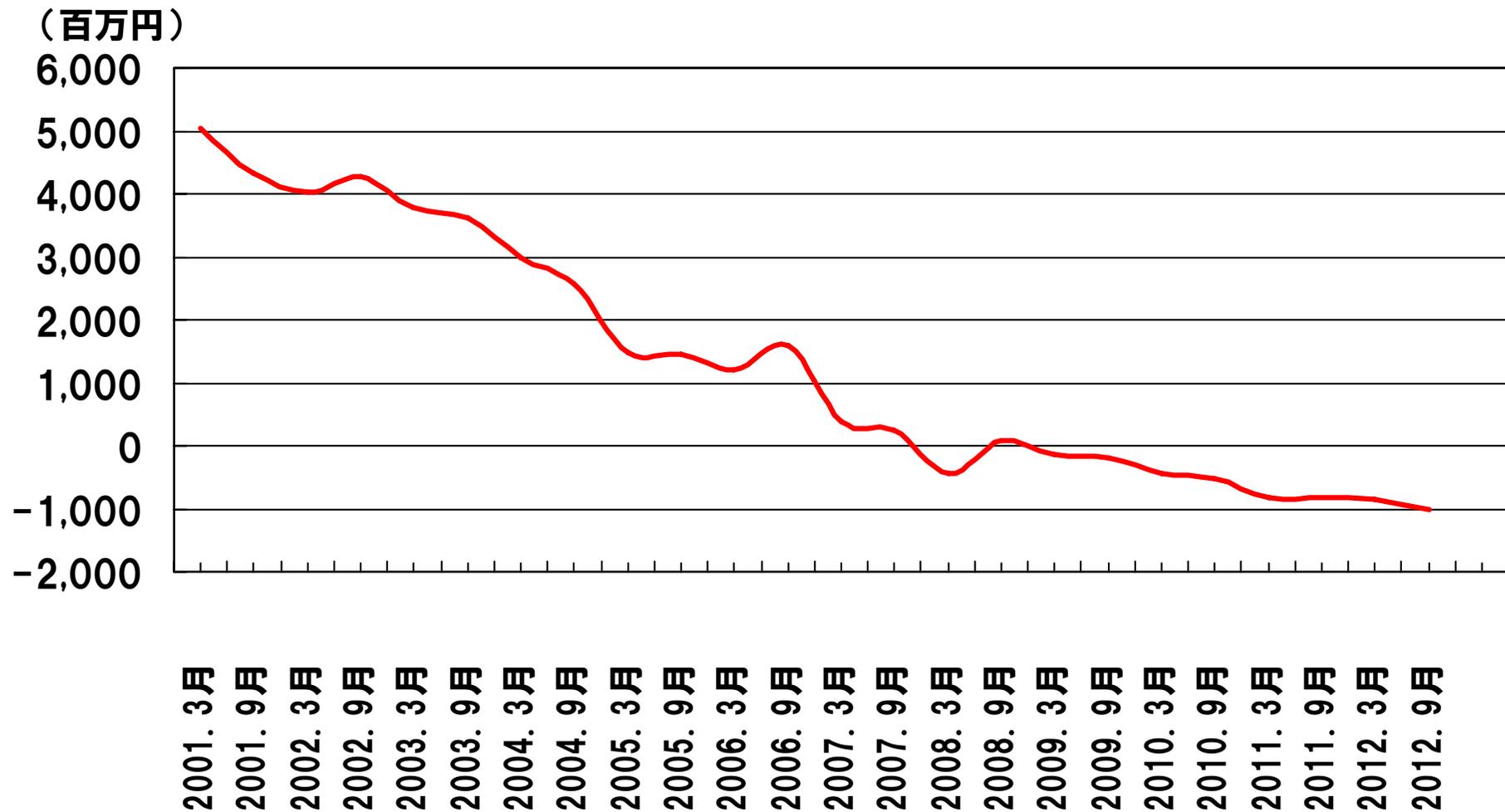


## 2013年3月期中間 財務状況(連結)

(単位:百万円)

	11/9期	12/3期	12/9期	12/3期比 増減額	
<b>流動資産</b>	7,285	6,827	6,602	△225	
現金預金	1,000	1,216	1,237	21	
売上債権	4,365	3,843	3,670	△173	← 第2Q売上高減少
たな卸資産	1,496	1,397	1,404	7	
その他	423	369	289	△80	
<b>固定資産</b>	5,519	5,313	5,132	△181	← 設備投資 1.1億円 減価償却△2.9億円
<b>有形固定資産</b>	3,051	2,836	2,655	△181	
建物・構築物	699	671	618	△53	
機械装置・運搬具	728	936	831	△105	
土地	1,092	1,094	1,092	△2	
その他	530	133	112	△21	
無形固定資産	384	326	272	△54	
投資その他の資産	2,083	2,151	2,204	53	
<b>流動負債</b>	3,662	2,830	2,729	△101	
仕入債務	1,368	1,013	922	△91	
短期借入金	1,184	962	890	△72	← 借入金返済 △1.7億円
その他	1,109	854	917	63	
<b>固定負債</b>	1,287	1,337	1,171	△166	← 借入金返済 △1.7億円
長期借入金	266	433	333	△100	
その他	1,020	903	838	△65	
<b>純資産(資本)</b>	7,854	7,973	7,833	△140	← 自己資本比率 65.5%→65.5%
<b>総資産</b>	12,804	12,141	11,735	△406	

## 有利子負債の推移



## 〔Ⅱ〕

# 2013年3月期 (2012年度)業績見通し および 今後の戦略

# 2013年3月期 業績予想

## 2012年度年間予想(連結)

	修正前		修正後	
	年間予想	前年比	年間予想	前年比
売上高	(百万円) 13,000	(%) 104.6	(百万円) 11,500	(%) 92.5
営業利益 (利益率)	700 (5.4%)	115.9	550 (4.8%)	91.1
経常利益	700	112.0	540	86.4
純利益	480	120.5	370	92.9

## 業績予想修正の理由

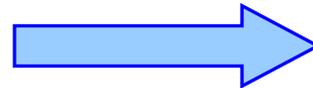


年初「経済状況は、下期回復傾向にある」との予測に基づき業績予想をしたが、回復は見込めない

- 1.国内 —— エネルギー関連は、少しずつ動き始めたものの、他の業界は低迷中  
一方円高状態が続き、産業機器分野の海外シフトが続いている
  
- 2.海外 ——
  - ・エアコンは例年並み、TVおよびOAは低迷中
  - ・EUへの直接・間接事業も依然として低迷中
  
  - ・ASEANの経済成長は続いているものの、今期は当社とのビジネスの結びつきは弱い
  
- 3.最大要因は —— 技術の変化である

# 技術の変化

アナログ技術



デジタル技術

① 消費者 = 使い易くなった

↓  
消費者拡大

生産者 = つくり易くなった

↓  
ものづくり技術が簡単  
(すり合わせ技術 → 組立技術)

↓  
Asiaメーカーの台頭 = 価格低下

② ・家電 ・工作機 ・自動車 ・OKAYAの部品

# 2012年度 投資計画

1. 増産投資	.....	300 百万円
雷サージ(RHCA)ライン増強		
2. 省力化投資	.....	300 百万円
東莞工場・スリランカ工場の自動化推進 ほか		
3. その他	.....	200 百万円
新商品開発・品質改善 ほか		
計		800 百万円
4. TOCキャパシタ	.....	260 百万円
新商品開発		
合計		1,060 百万円
・ 研究開発投資	.....	450 百万円

修正計画		
年間	上期	下期
0	0	0
250	55	195
150	17	133
400	72	328
220	43	177
620	115	505
450	197	253

# 下期および来期に向けて

**1. 選択と集中** ——— 事業(商品)の選択は、ほぼ終了  
今後は、集中効果を上げる時

**2. 大幅な機構改革** ——— 検討中(2013年4月1日より導入予定)

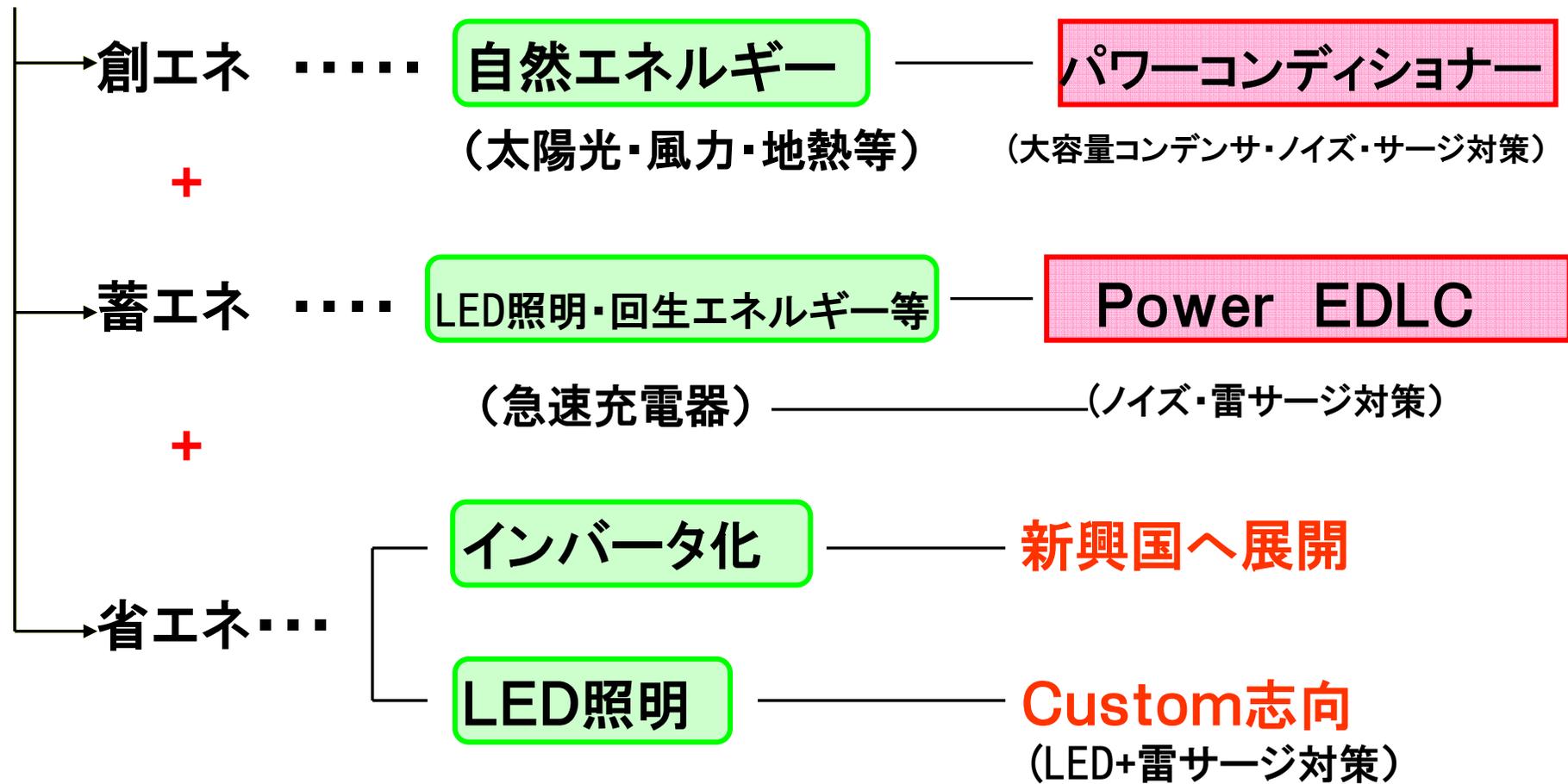
# 国内事業

1. エネルギー関連事業

2. 新規参入業界の開拓

〔国内(1)〕

# 【エネルギー】



# EDLC開発経過と今後の予定

1)2011年4月1日 — TOCC設立 EDLCの開発スタート

2)2012年3月31日 — 第一期開発終了(現行他社品の2倍の蓄電量)

3)2012年4月1日～11月30日 — 「試作+少量ライン」を発注・購入・設置(長野T/C内)  
(1万個/月 生産可)  
第二期開発スタート

4)2013年2月1日 — 形状サンプル配布・営業活動本格開始

5)2013年4月1日 — 信頼性確認終了・認定サンプル提出可

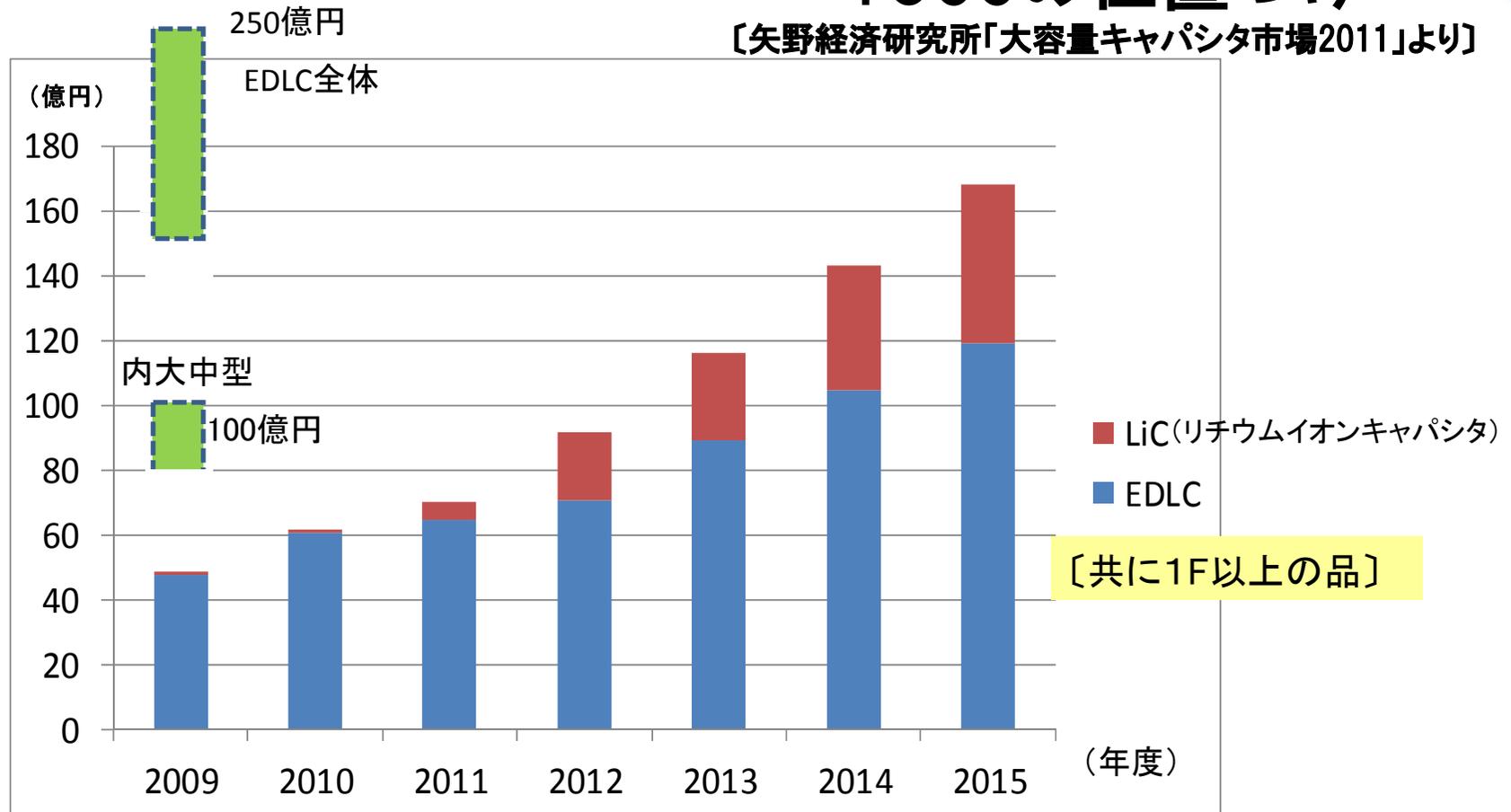
6)2013年4月 — 少量の受注・生産開始

7)2014年4月 — 量産の方向付予定

8)2014年12月 — 量産体制完成予定

# EDLC/LiCの市場規模推移(国内)と TOCCの位置づけ

〔矢野経済研究所「大容量キャパシタ市場2011」より〕

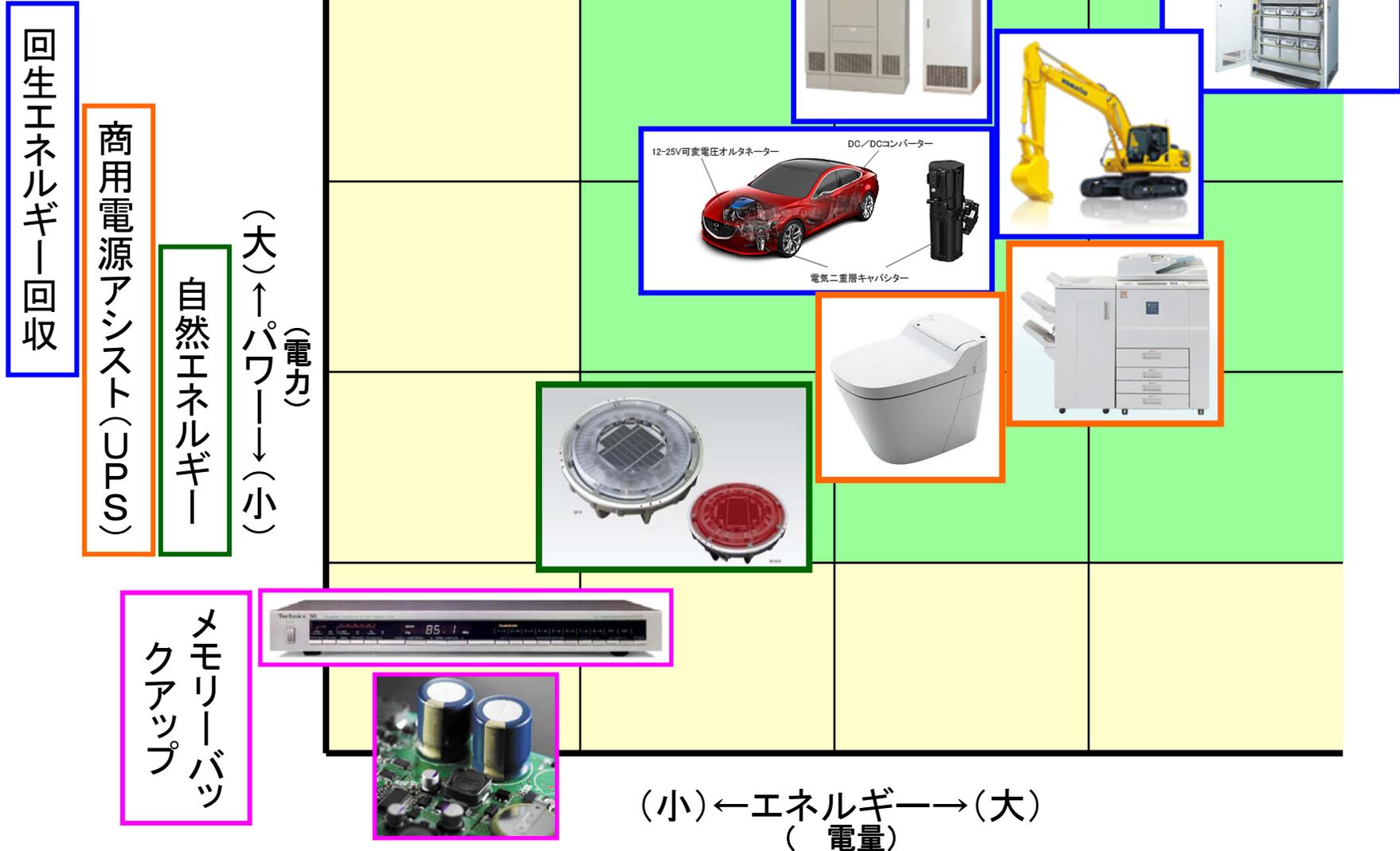


(参考)本書籍の調査期間は2011年6月～2011年8月なので震災の影響は含まれていると思われる

 は産業タイムズ社の「2次電池・電気二重層キャパシタ産業総覧2011」より抜粋

# キャパシタ応用製品と市場

緑の範囲がTOCCの狙う範囲



## 新規参入業界の開拓(従来市場)

1. 通信業界 —— RHCA(新バージョン)を武器に参入  
( 参 )
2. 医療機業界 —— ノイズ・サージ・LED照明で参入
  - ①精密医療機本体
  - ②精密医療機の測定環境
  - ③医療照明のLED化
3. 自動車業界 —— 周辺から参入—— 自動車業界体質をつくる
  - ①急速充電機
  - ②自動車本体の充電受口のノイズ・サージ対策から参入
4. 半官・半民公共業界(電力、鉄道、道路・・・)  
—— RSPDで参入
  - ①道路公団・・・照明のLED化(LED+雷サージ対策)

# 海外事業

## 新興国 (中国→ASEAN→インド)

— 経済は5～10%の成長

— 収入増(豊かさ増)→内需購買が急増

— 特に富裕層向がビジネスチャンス

〔海外(1)〕

## 中国市場

- EU輸出 ----- 依然として低迷(影響大)
- 内需拡大 ----- 鈍化(インバータエアコン在庫調整終了)  
(現地販売の特約店増)
- 産業機器の日本からのシフト(部品の調達はこれから)
- 最低賃金の上昇(地域差あり)
- 成長率が鈍化、しかし成長国  
(地域拡大しながら攻めていく)

〔海外(2)〕

ASEAN市場

①タイ (現地法人: 販社2013年4月設立直販開始)

②インドネシア

③マレーシア

④ベトナム

韓国強化

専任者+特約店 増

インド

タイミング検討中

# 機構改革

- 【目的】
- 1.「市場のグローバル化」「市場の変化のスピード」に対応すべく、「いち早く」「高い精度」で変化をキャッチし、対応スピードを上げて、競争に打ち勝っていく
    - その為には、比較時「市場に近い場所で」「現地・現場・現物」主義でActionを起こさせる機構とする
  - 2.「戦略性」を高め、5年先・10年先を見詰めた経営を行う
    - 最大の強化ポイントは「マーケティング」と「基礎技術と基本商品の開発力」であり、本社の重要ミッションと位置付ける
  - 3.「権限と責任」を明確にし、責任をしっかり果し、成果を上げる集団へと変えていく

# 生産工場の改革

## 1.中国「東莞工場」

(1)受注減により、直接員大幅減少

———— 今後の生産立上げは、極力機械化

(2)この機会に、間接部門の省人化

———— 作業分析による効率化+IT化

(3)生産品目の住み分け(スリランカ工場との効率分担)

———— 産業機器用多品種少量品の生産体制確立

## 2.スリランカ工場

(1)順次、東莞工場で完成した省人化システムを導入し、省人化を計る

(2)部材の現地(隣国を含め)調達化を推進し、副資材を含め、コストを下げ、リードタイムを短縮し在庫量を減らす

## 2012年度 配当

- ・ 中間配当 … 「5円」
- ・ 期末配当 … 「4円」 (見込み)

**年間配当 … 「9円」 (見込み)**

**ご清聴ありがとうございました  
ご支援のほどよろしくお願いいたします**

## **連絡先**

**窓 口:経営システム部**

**ホームページ:**<http://www.okayaelec.co.jp/ir/index.html>

**メールアドレス:**[OEI\\_Kouhou@okayaelec.co.jp](mailto:OEI_Kouhou@okayaelec.co.jp)

**電話番号:**03-4544-7000

**F A X 番号:**03-4544-7007